

馭戎概言

上之下



不破御文庫

馭戎慨言上之卷下

次一

周本

宮序宇舒天皇

二年八月大仁犬上君御田

歛大仁藥師惠日とも役

四年八月大仁とも。高表仁とものを役と

て御田歛ともくまく射るかつまつとも。云

紀本。此兩よりくくひよくやく唐の代より

つ。ゆかり。唐書本。太宗貞觀五年遣使者入朝。

帝矜其遠語有司母拘歲貢遣新州刺史高仁表往  
論與王角禮不平不肯宣天子命而還。といへる。この事

元德文庫印

まし。太宗ハ高祖といひ。子も。魏文帝ニ世の王貞  
觀五年卒。今之國の御世ノ三年。かうと  
いはゆるは表。仁也。新唐書又文獻通考。本のル  
く仁表。もとと。舊本も小。古礼と同。く表  
仁也。與王争礼。もと。去就ノ如ハス。も。但

小治田の朝廷の御内のみへ。此度は後も。大宮内より。天皇と添えす。——事。と。ちよびと。かうりゆかく。ト。ナ月。御波津の館。お入。御酒を賜。ま。と。此年。正月。お。こうま。——きの。あ。

ひもせどもんとせだ。このも表にとばちこせきん。と  
ば表にとくもみでうにいはうもまうりて。とくとく  
天皇とくとくわめむきて。あむとくとくひき。とくとく  
の小玉とくとくあみかくらむひきとくとく  
とく。

名トナリ。次ノ内事云アリ。永徽初、其王孝德即位。改  
元、曰白雉獻虎魄大如斗、礪石若五外器。時新羅為  
高麗百濟所暴、高宗賜璽書令出兵援新羅。といへる。  
永徽ノ小高宗が年号。そりや元年ハ、四年九月也。  
雞波宮御宇、德天皇の御代。白雉元年ト云々。有紀  
二ノノミヤニアタシシモト、孝モアミコト

難波宮守宇德天皇の傍代に遣え年。うとう。考紀  
ホイム。白華四年夏五月。辛亥朔壬戌。發遣大唐大  
使小山上吉士長舟。副使小乙上吉土駒。學問僧  
百二十人。俱乘一船。又大使大山下高田首根麻  
呂。副使小乙上稀部遠小麻呂。學問僧百二十人。自  
一十八人。俱乘一船。秋七月。被遣。大唐使人高田根麻

呂等合船沒死。同五年二月遣大唐押使大錦上  
高向史玄理大使小錦下河邊臣麻呂副使大山下  
藥師惠日。三公集三船留連數月取新羅道泊于萊  
州遂到于京奉覲天子。押使高向玄理卒於大唐  
之秋七月甲戌朔丁酉西海使吉士長丹等共百濟  
新羅送使泊于筑紫是月襄美西海使等奉對唐國  
天子多得文書寶物。天子曰。四年六月大  
使副使高向玄理二人て二つ小舟て渡り。又  
多得文書寶物。天子曰。又この役めいまとくすまくすむ了。  
計はまくとス高向玄理などをけり。とひとひ

そもふ唐書ノ。献虎魄として。のゆくを  
せんくして

後岡本宮淨宇。明天皇の九世元年八月か。御河色麻呂  
佐多ハアリ年ナキ。次ノ。同ト。代五年七月  
小錦下坂合部。連石布。大山下津守。連吉祥。ナリ  
ナリにけり。仍以陸道奥蝦夷男女二人。示唐天  
子。と。大臣。伊吉。連博德。が。わ。と。ハ。と。ナリ。時  
代小角。ナシ。伊吉。連博德。が。わ。と。ナシ。ヤ。と。去  
を計。往。アリ。ナリ。次ノ。役合。石布。連。ル。  
ゆく。ま。小。角。ナ。シ。伊。吉。連。博。徳。が。わ。と。ナ。シ。ヤ。と。去。

相見

吉祥速ぞひまよひつて。至もんかわづ。御  
みまむれとひひく。来年百濟をほろびえ  
とひひく。けふひはせとひ。まてぐ  
くくこげり。いがの木をすまひ。天智立。  
明年使者與蠻夷人偕朝し。

天智天皇ねけすうきをひ。ハシグムシ。かくて、ミヌの  
新羅とをとして。百濟とばかりり。さう  
き。おもまく。令出兵援新羅。ひ。ハシグムシ  
みれ事ありべきと。

孝德天皇ひけすうけとし。かく。かく。天智天

とひ。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
天皇ひづる。花紫。幸め。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。

皇太子。西。天。花。紫。幸。め。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。  
王。小。か。く。て。織冠。を。賜。ひ。又。多。臣。蔣敷。の。時。と。ま。ホ。小。褐  
ひ。て。う。タ。カ。ウ。兵。を。ま。て。あ。ク。リ。つ。シ。て。そ。モ。そ

建テ。カタヒニ。モ。百隊。アキ。モ。ウハ。ジン。ハ。  
タ。ス。ト。ナ。軍。モ。遣。シ。テ。利。敗。キ。ハ。賊。シ。ト  
ヒ。武。ミ。ト。シ。ム。エ。ヌ。ミ。テ。モ。

近江大津宮ツノミニニヤマツチ天皇アスカノコロ天皇の代二年九月。百濟ハつひよ  
メハ不<sup>レ</sup>り。同二年六月。唐の百濟鎮將劉仁  
王願と少子の劉仁祖。鄭勢惊とて子の役に  
て參り。善隣國寶記。海中記。門々。日本  
を立たざる。此使四月。封る。小豆島。時。  
智辨チボシと少子をつゝ。東北邊をニソ。そ  
の後。右將軍牒書一函。并獻物として。至る。

金入京たり。又此と八重主が仗あひあつ次。それ

まことに、このいじつきをうながす。おこで、1、3、

きく。うへもすへて。うへて百味をもく。  
え。我へてかむひ。今ひ役をまどて。奉遣

宇那の軍隊もひひきり。百濟の國をじらやうが

天皇の御代りをうらんとおもふ。されば大山を破  
ひくすんと。けむ國のわうきをうる

皇朝の賊アサシ。あひひはりひやく。鼻  
アサシをひきとひかへまよ、うねを。まーてこ  
とかひざまん。まくからくもやう、あひくまくべと

とすりぞ。まじめにけうそ。とて。宿

をどきと賜り。と。おふくろ。と。まわ。

皇師討ひ。まつま。筑紫を。防人烽火と。まき。ま。

筑紫。小城。と。人堤。と。け。あ。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

寇

本直

濟鎮將軍。王使。百  
守君。業。百濟。置  
鎮將。小遣。紀。百  
之。此役。東國通鑑。書。於是。  
仁願。領。新羅及。百濟耽羅。倭人四國。使。浮海。西還。唐  
へ。倭人のは。も。う。一。西還。唐

は金田城をどと築き。まことに。そのゆえ  
かくのうすりしき。もくべつたるが。同七年九月か。  
新良が役をまつて。か。調をまわす。新良ハキタ  
後岡本宮御宇齊天皇  
明 天皇代唐木色ひげて。新良  
皇朝もじき。つひよ唐とう。百濟ひやくざいの事で  
からりやがて。しりくらむ。まの  
ふ。今かくまゆまゆ。左の。ごくくえり。おとせ  
ごとて。かんじくよあざくすり。又おれにまよと  
きりくもひやすへむ。

ら二千人四十艘の船のうち多くをばさう

天皇

前

郭勢棕ら流業ナガミ。

衆服をまし。一び舉哀チヨウイ。東の方アシカ。じようとくをづめ  
あり。とわり。テバ書シハコ。信物スニモツ。てすり。ふくよ  
アとぬあびく。ノーハヤモジヒキ。ひだも側のま  
す、まほり。よくはせき。おもむき。おもむき。おもむき。

大唐帝敬タカハシ。日本國天皇ニホンノミコト。

天武天皇元年にり。ハ大唐皇帝敬タカハシ。倭  
タタキ。元永元年菅原スガハラ在良朝臣タケルノミコトの勘セキ。復ハタケル

考アマガシ。度シテ。郭勢棕ナガミ。驚ハラハラ。かまつ。ハ  
トキナ一月ハチイ。十二月トト。

天皇

崩

三月ミヅ。三月ミヅ。書シハコをまし。スの

鷦鷯アスカシカツシ清御原宮タツミノミコト。天アメニ。天皇アメニ。

元年ハチイ。元年ハチイ。書シハコ。

ハシハシ。ハシハシ。と。ちこま。わ。ひ。ひ。

天智天皇アメニ。天皇アメニ。

天武天皇アメニ。天皇アメニ。

天武天皇アメニ。天皇アメニ。

天武天皇アメニ。天皇アメニ。

倭王アマミヤとある。がのま。日本國天皇アマミヤと。古治田アマミヤ推アマミヤ朝廷アマミヤの内アマミヤの。倭皇アマミヤは皇アマミヤは守アマミヤれど。そそくさ  
天嘆アマミヤまきて。ちこちこアマミヤねうへー。そそくさ

キヨミ  
バフタニセニカシシタヒシ  
カヨミコト  
天皇  
スミコトニコト

六月。しやもく。ば、ちもぐ。一。そ。て。ひびと。  
ら。活ひ。し。し。や。又。び。ば。二。ゆ。代。ば。お。も。び  
つ。び。り。ん。の。か。ま。ま。も。ア。ト。や。と。ま。も。  
く。ま。ど。に。伎。つ。し。と。は。ま。れ。や。さ。う。ハ。う。ば。よ  
ア。も。と。タ。ク。く。く。も。や。ま。ま。く。く。か。く。て。三。ナ。キ  
わ。ま。う。る。ト。伝。ふ。ス。ト。も。よ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。  
藤原宮湯守フジワラノミコトノヨシマサ 文天真宗豐祖父、天皇の御世大寶元年生。  
栗田朝臣真人スリタノミコトヒトシ 遣唐執節使。  
奉船出コウボウダツ と。役。風。り。く。て。え。波。う。そ。又。の。と。  
六月。山。ま。う。う。海。う。て。慶雲元年七月。ふ。う。ま。わ。う。

フダガラミヤニアリシタコロヌ  
藤原宮源 実文天、真宗豐祖父、天皇の御世大寶元年 小。

栗田朝臣真人を遣唐執節使。やぐくま  
車船出フナゲで。以降りくてえゆうて、又のと  
れ六月小。まつりはりて。慶雲元年七月六。とまゆう

き。唐書。長安元年。其王文武立。改元曰大寶。遣

朝臣真人粟田貢方物。之。之。之。之。之。之。

高宗死後。そのまゝ武后が王となりて。その名を

と。周と改名。之。之。之。之。之。之。

の元年。之。之。之。之。之。之。之。

舊唐書。之。之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。之。

寧樂宮。之。之。之。之。之。之。之。

高瑞淨是姫。明天皇。之。之。之。之。

靈龜二年八月。之。之。之。之。

多治比真人縣守。遣唐押使。之。之。之。之。

養老元年。之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

初栗田復朝。諸徒。諸儒。授經。詔。四門助教趙玄默。即

鴻臚寺為師。獻大幅布。為贊。悉賞物。質。書。以歸。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。

て。同ト一人とも少レ。舊唐書曰。ハ名を、レ。又遣使來朝。といつて。少レ。

天靈國押開豐櫻彦聖武天皇の御。太平心年八月か。多詔比  
真人廣成を遣唐大使シテ。遣ひ。同五年心月小。ま  
ら。遣りて。同七年二月小。そりまくと。入唐留学  
生下道朝臣真備シモウミツチ。ば。伎アリ。あびひて。アリ。まく  
て。唐禮百世卷。太衍曆經一卷。太衍曆立成十二卷。  
樂書要錄十卷。そのやうく。く。れぬをめもとて。  
そもまくと。は人よ。それの書。考。比方の序。使。手  
たゞひく。のまく。まく。遣りて。まく。たゞ。が。こにし

十九年とてアラカリテアラカリテアラカリテ。後ノ吉備  
経はとツ人姓ともあり。而入にまをのりアラカリテ  
く。モト一衣備大臣と申ハシム。シテモ奈  
諸<sup>カバチ</sup>儒<sup>カバチ</sup>授<sup>カバチ</sup>經<sup>カバチ</sup>云<sup>カバチ</sup>。トアラカリテ。シテモ奈  
人<sup>カバチ</sup>はれ幸<sup>カバチ</sup>うりちんを。シテモ奈<sup>カバチ</sup>儒<sup>カバチ</sup>と<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>と<sup>カバチ</sup>ナリシ  
て。シモタシ雲<sup>カバチ</sup>田<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。又は天平の世  
の人役アラカリテ。多治比<sup>カバチ</sup>喜<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。義<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>  
アラカリテ。ホトトギス<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。シテモ奈<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。波風小舟<sup>カバチ</sup>  
也。シテモ奈<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。アラカリテ。シテモ奈<sup>カバチ</sup>人<sup>カバチ</sup>幸<sup>カバチ</sup>。波風小舟<sup>カバチ</sup>

より。副使中臣朝臣名代がて俊イリはき。

天皇ノ多リ内ニ書を。洪九歎とソトヨリ、アシテ

を。文苑英華とソトヨリ、裁ヒテソク。勅ヘ日本

國王主明樂美御德アキラミテ 張九齡文集主作とソトヨリ。

々くナリサクハ。以度ハ役れ人。

えの語名といふもどり。ハ石をト。もんハ。」譯

きき。主明樂美御德とナシテ。カキ。苔ヘタ。モ

シムノ。漢文ヨ天をヒヤヒキ。シ人ミコト。皇國

云ふをあすね。けはち名とひゆく。ものまく  
ちくすり。おし。がと近きせ。新升式ヒ殊號

事多ヒソヒホ。ハ事を詠。大國の天子アシタツ。  
て。外國の君を。天皇と称で。まんじ。御ベテバ。  
又國王と称。ヒテ。不々の。事。ヒヒ。内。兼用。  
て。ハキ。アキラ。ヒテ。人少。侍。ヒヒ。ト  
ト。ハ。隣國の禮。ヒヒ。大國。ヒヒ。ト。アラヒ。アヒ  
え。アヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ  
まれ。アヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ  
ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ。ヒヒ

天皇。そのをうとてそぐふよし。かせれすとほも收め  
まし。玉王とくらひをとふもくらんじゆ。かうめやが  
き初をはくへしゆた。又伊友氏も。主明樂美御徳  
とハリとこくの詔書ふるまつてけり。りふじし  
とゑく。一ことすすもあり。さうありべーとくへ  
ア。儀制令の義解など。須明樂美御徳と。奉  
ふるえ。ふるえ。いは。いは。いは。いは。いは。  
いは。いは。いは。いは。いは。いは。いは。いは。  
いは。例をうと。藤原葛野麻呂に書く。とて。下ホ  
く。下ホく。下ホく。下ホく。下ホく。下ホく。

もひきとく。かしわとく。  
一とすりハ。まもとし行はせぬとゆひてトヤシム。  
物もともとハ。天皇トナヒシ國ト。日本かまば。皇國  
モハ罪がきを。よべての祠ナニいとゆやかく。よどよどか  
う。大タケきよみ。卿ケかくそくへするかど。  
之をもめきりて。まへつ居キミくらまでと。ばんはいし  
く。不知シテぬ。ばくと奴ガツも。アリト。アソヒ。アソヒ  
く。ちかわかわらふ。のぞみ。御小早さの。も。あ。ひ。ふ。  
む。ひ。き。一。絆ハタハタ。一。う。も。く。い。と。く。

一ノノウム。古麻占ナレ。もとし一の  
位ナリ。御の役カシカシカミホヘ密  
使シ。不滿。天寶十  
二年、天平勝宝五年にあたる。天寶十  
二載、朝衡復朝。日本ノ事ヲ大使副使  
シの名トハシダラフ。朝衡。もとつ。い  
人を。そそとまつり波アリ。久しくモ仰ガ  
ヤ。但。舊唐書。開元初。又遣使來朝。其偏

使朝臣仲滿慕中國之風。留不<sub>レ</sub>去。改姓名為朝衡。  
留京師五十年。逗留不去。天寶十二年。又遣使貢。  
上元中擢衡為左散騎常侍鎮南都護。以<sub>テ</sub>是<sub>テ</sub>而  
名<sub>シ</sub>。天寶十二年。仲滿<sub>ハ</sub>自<sub>リ</sub>  
あり。詔し。仲<sub>ミ</sub>を新<sub>ニ</sub>立<sub>ム</sub>。公<sub>ハ</sub>復<sub>シ</sub>朝<sub>ム</sub>。とい<sub>フ</sub>。又遣  
使<sub>シ</sub>貢<sub>ム</sub>。と<sub>リ</sub>ゆく<sub>ム</sub>。と<sub>リ</sub>おけ<sub>ル</sub>。仲<sub>ミ</sub>が<sub>シ</sub>奉<sub>ス</sub>と<sub>リ</sub>ひま  
グ<sub>リ</sub>。誤<sub>リ</sub>りうる。次<sub>ノ</sub>

仲<sub>ミ</sub>は隋代。天平宝字五年十月。仲<sub>ミ</sub>真人石伴<sub>セ</sub>。遣唐大  
使<sub>シ</sub>。副使<sub>シ</sub>を<sub>シ</sub>定<sub>ム</sub>。<sub>シ</sub>を<sub>シ</sub>定<sub>ム</sub>。<sub>シ</sub>を<sub>シ</sub>定<sub>ム</sub>。<sub>シ</sub>を<sub>シ</sub>定<sub>ム</sub>。

光仁天皇の遣。寶龜六年六月。佐伯宿祢今毛人。  
遣唐大使。同七年四月。船のり。風あつて。同八年四月。又京を  
もとへ。病がちりて。又えましげ。副使ト  
石根<sup>オホヤ</sup>。作て。舟<sup>フチ</sup>。即そむて。人仗の半  
をいこかし。同九年六月。船のモロコ。冬。才三の船才にの  
けみて。王ホカヒ。そのノリ。アキ。才二の船才。  
才二の船才。アキ。アキ。モロコ。ビ。アキ。アキ。

終はをくべり。ふすと人海よりて。うせゆるよ  
く。そがト車判官大伴宿祢繼人。くし  
て余もぞう。かづき年うて。こりたばがり了  
おろし。うし。あむけとはをゆどや。あめ  
ほ。趙寶英。者。はま一派。うそく。  
とく。小判官孫興進秦憲期。うじよのど。  
無恙。かくありまく。月十年五月。又充  
皇朝を洋々とて。お王。書。ゆくよつわがじてさ  
まざ。食かじめりて。うづり。又月。主判  
官高鶴林。とく。のハ。がくもとまきて。一年。ふ

内。み。外。と。う。と。う。れ。お。こ。り。ね。判。友。小。  
壁。竹。滋。野。か。ア。け。ま。一。内。ば。が。の。ゆ。き。れ。り。ひ。  
の。ま。一。か。そ。一。花。紫。す。り。京。よ。や。ん。中。に。  
今。唐。客。隨。臣。入。朝。迎。接。祇。供。令。同。蕃。例。臣。具。牒。太。宰。  
府。仰。令。准。擬。とい。い。又。ひ。が。領。唐。客。使。の。ア。ズ。文。よ。  
唐。使。之。行。左。右。建。旗。亦。有。帶。仗。行。官。立。方。前。後。臣。寺。  
替。之。古。例。未。見。斯。儀。禁。不。之。旨。伏。詣。處。分。ト。ノ。多。少。  
ト。仗。を。革。ト。と。い。ト。く。旗。ト。ア。ト。革。ハ。少。  
され。ず。ト。と。又。ト。ク。る。も。新。羅。朝。貢。使。王。子。泰。廉。入。京。  
之。日。云。々。但。渤海。國。使。云。々。今。領。唐。客。准。據。何。例。進。

退之と申せり。まことに。うりて。不。そ。の。へ。唐王乃  
便。と。か。く。遇。ト。ら。ひ。き。り。と。も。や。三。韓。を。じ。け。と。公。と  
ト。か。き。き。と。一。半。あ。る。ま。で。筑。紫。い。リ。京。き。の。  
が。か。の。下。し。れ。と。ひ。か。ご。と。と。が。も。う。ま。い。よ。ゆ。  
ト。お。り。と。さ。か。へ。う。り。ま。う。い。う。へ。つ。一。半。あ。る。  
シ。う。り。又。之。は。と。れ。み。ど。と。だ。く。て。王。が。お。そ。  
食。ア。キ。ル。村。の。大。詔。入。唐。使。上。書。朕。見。之。云。こ。ま。と。け  
餐。湯。ひ。く。付。け。詔。ト。客。等。比。在。館。中。旅。情。愁。鬱。所。以  
聊。設。宴。饗。食。加。授。位。階。兼。賜。祿。物。卿。等。宜。知。之。と。わ。り。  
又。ま。う。つ。ま。う。一。く。う。う。う。の。羽。臣。等。多。幸。得。謁。天。

闕。今乍拜辭。不勝悽戀。とやうり。後々々ハ續  
紀。あすうとく。うそり。うそり。唐書小。建中元年。使者真  
人興能獻方物。建中八年。王德宗が年号。その元  
年ハ寶龜十一年。うそり。はがの。はの。こ  
からうそり。一年と。二年も。ひ。又ゆ仗り。うそり。次に  
延暦九年と。まひ。うそり。うそり。

平安宮ニアムシク宣モ。桓天皇乃御世、延暦廿年八月丁巳。藤原朝臣  
葛野麻呂を遣唐大使として。同廿二年四月小舟出セ  
リ。浪爾りて。かや。よまとけとば。えゆり。方。而。之。  
まされ年廿三年。ムカヒノ。方。アモ。ヨリ。王。徳。

宗より。せ四年正月の日も。又かく。ふも月  
徳宗死て。その子法をけ。モクモク。六月。小尉も。ノ  
アリ。つまて。ヤレ。ト。タハ。ムロの貞元廿一年。テ。順  
宗ダハ。ムロ。ク。永貞と改。ノ。年。アリ。ヨリ。ハ。友  
副使石川朝臣道益ハ。ムロ。カ。テ。カタマリ。ト。ミ。ミ  
テ。キ。ナ。ノ。貞元。未。其王曰。桓武。遣使者。朝其學  
子。橘免勢。浮屠空海。願留肄業。歷二十餘年。使者高  
階真人來。諸免勢等。俱還。詔可。といふ。ば。だの才也。  
物をうれ。宝龜の才。ひ。仗を。し。も。真人興能も。う  
ざら。ハ。誤。モ。ノ。興能も。ば。げだの大。使葛野麻呂。九  
年

小聖。味子も因高とひしりく。  
出玉とて葛野をさへ名づけ。日本紀略又空  
平加海乃とある文など。貢能とし不<sup>レ</sup>ト。まんも。ど  
もけだ。使判官高階真人遠成を。まざま。りつ  
じ。遠成れ。下。類聚國史。大同元年十二月壬  
申。遣唐判官正六位上高階真人遠成。授從五位上。  
速成卒爾奉使。不<sup>レ</sup>違治行。其意可<sup>レ</sup>矜。故復命之日。特  
授焉。と。大同元年八月遣  
わらび。ば。近習のび。判官。人乃中也。一人し。それハ。  
大同元年九月遣唐使の半。わやう。と。まく。

御使が本使副使をとつかく。ト。又判官がまつりを  
さざり。じかく。又右の文の主。小氏を成を遣  
し。ましまく。又。又。六角  
1. おれは役のことをあり。と。のナニ。か。又  
後のはせれ。も。小。復。命。  
桓武天皇。ひかり。ゆ。く。て。め。す。大  
平城天皇。みの。六月。小。け。傳。け。を。活。ま。だ。い。ま。遣。唐  
使。わ。く。り。ひ。と。と。き。し。ゆ。き。や。く。り。だ。い。き。は。延  
暦。せ。年。一。ふ。れ。大。役。か。ど。ミ。ド。ハ。ア。フ。レ。げ。ゆ。ゑ。く。

み國アトミモリ。又乃奉。大同元年。ふ。ち。く。と  
事。味。て。く。り。ま。う。ア。ア。ア。ア。ア。ア。朝野群載。此時唐王。  
遠成小。ア。ア。ア。ア。位記。を。り。く。ア。日本國。使。判官。正  
五品上。兼行鎮西府。大監高階。真人遠成。右可。中大  
夫試太子中允。餘。如。元。云。元和元年。四月。廿八日。已  
ア。れ。國。の。元。和。元。年。ハ。ア。ア。ア。ア。ア。ア。大。同。元。年。シ。舊唐  
書。貞元二十年。遣使。來朝。留學生。橘免勢。學向僧  
空海。元和元年。日本國。使。判官。高階。真人。上。言。箭。件。  
學生。藝業。稍成。願。歸。本。國。便。請。與。臣。同。歸。徒。之。ニ。ア。ス。  
は。文。乃。述。し。る。以。も。人。の。年。ア。ア。ア。ア。ア。ア。

とよ一トびハ。定ヨリ例のゾムシテ。アラハ此キモ  
ト。今ハく絶ヘリ。ハスレトタニ。ケ  
ンキサリナカニヤ。ダニナガノ。ハシルモクニヤ。シ  
ミ。戒王。ジビシヒト。ハ。大宝國のカヌミモクナ  
リ。今モナシテ。シト。モカレス。ナシ。ナシ。ハ  
テ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
カヌミハ。ヒト。モカ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。

毛をうそ。うそをかくするくゆま。まほとまほと  
て。恭<sup>恭</sup><sup>順</sup>やゆやくへり。ひもくばへやあらう。  
もくす。むにゆふ。おもへり。ひきうて。まくまく  
く日下國王かどりのそぞり。ひきうて。まくまく  
はいじけびく。かくてわす。ゆふ。まくまく。まくまく  
まくまく。

仁明天皇の御云。承和元年正月。蘇原於常嗣を遣唐  
持節大使。イイケト。同三月五日。松土<sup>子テ</sup>を。  
例の役。ひかれて。松土<sup>子テ</sup>を。ひかれて。  
う。松土<sup>子テ</sup>を。ひかれて。同に奉三月。又、松土<sup>子テ</sup>を。

まくまくしえゆく。ももひく。太宰府へり。まくまく  
かくて。同五年六月。大使を太宰府へり。又。かで  
マ。副使小使経はる。ひまつと。ひまつ。病の  
一ヤシでまくまく。

嵯峨。太上天皇。ひりゆく。て。隱岐國。ひりゆく。同  
六年八月。大使を。ひりゆく。ひかれて。ひまつ  
ノ。京。まくまく。唐書。次。仁明。仁明直。開成四  
年。復入貢。こう。比度。北。まくまく。同成。仁王文宗  
六年。かね。五年。ひりゆく。義和六年。ひりゆく。同  
五年。かね。唐王。ひりゆく。仁王。續後

書了。賀能啓。又大唐之遇日本也。待以上客。詐世淳人質文契何用。是故我國淳樸已降。常事好隣。所獻信物。不用印書。所遣使人。無有奸偽。何更用契。然今州使責以文書。檢括船上。官吏之道。實是可然。雖然。建中以往。入朝使船。州縣諸司。不檢船物。今則事與昔異。伏願傾好隣之義。不然。常風。此乃空海。性靈集。於此。唐の

書  
必ずう仗をもつて。じでひらよハ必テ王の也。さ  
べとまことりをもと。よハ「アハ。」  
シ。あくろ。アハ。モ先をうんざり。アヒ。  
序、きほし。舊唐書。其人入朝者多自矜大。  
といふ。アハ。アハ。アハ。アヒ。

文德天皇

清和天皇

陽成天皇

乙巳、ちまく。ノリ。カヤニホリ後。カク  
もとて。ヨドヒトふくがり。アハ。ノリ。カク  
同七年五月十五日。唐使入朝。又扶桑畧記。アハ  
ノリ。ヨドヒト。アハの。カリ。シキ。ハ。伎。ノリ。ノリ。  
ノリ。カク。  
醍醐天皇。アハ代延喜。アハ。唐。モトヤウビ。ノリ。内。ノリ。  
ミドリ。アハ。五十年。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。  
アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。  
村上天皇。ハ。代。天德。モト。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。  
アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。  
アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。  
アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。アハ。

西湖

ううひとを。五代とうへひを。  
天皇は隋代。天德の末小豆そりく。趙匡胤もいたる。  
金を。テケ王とあらわく。宋じよ。こうかくうりわく

天皇の御世。天元立年不<sup>レ</sup>。裔然と<sup>シテ</sup>シテ。のち  
之をふくして。宋王たり。ゆきろまへど。づ  
ぎと。うつりきり。宋王太宗。神代より。天津日嗣。  
アツヒツキ



鳥羽天皇の時代。元永元年。宋國より孫俊明鄭清が遣

使へて、今一びとくに書を寫す。又御下。矧爾東夷之長。實惟日本之邦。人榮謙遜之風。地富珍奇之產。彌修方貢。彌順明時。隔闊殊<sup>テ</sup>年久。缺乘王之義。遭逢庶旦。宜敢事大之誠。みどりア。はま。の例。小金アリヤ。ヒトシ博士。トモトモ。ジノハ。シカ。アリ。ど。御善<sup>ミヌ</sup>スムくてやまん。ソラムシホモ。ソル。アラントハ。ハ。シカ。ハ。例。アドヒトスモヒム。キヒシム。トウク。モニヤ。アホヒトスモヒム。ミタスモアシヤ。又。

高倉天皇ぬゆ世。承安二年。おもろ明州刺史かよ  
アリ。その書はうとし。例の文アシナリ。大外  
記清原頼業。アリ。入道。アリ。アシナリ。ト  
法皇きく。アシナリ。アシナリ。アシナリ。アシナリ。  
國アシナリ。アシナリ。アシナリ。アシナリ。アシナリ。  
天皇此珠<sup>珠</sup>。阿波<sup>阿波</sup>。栗山氏。山岸<sup>山岸</sup>。アシナリ。  
アシナリ。アシナリ。アシナリ。アシナリ。アシナリ。





えまでもまくまとつて。まくまと天子とさんばうごんか。  
彼感

蒙古文

天皇をうごく。天ふニツの  
戻

四

大や、お人間の言葉が出來たが、それが何の事かわからぬ

もれ入るのをといやへり。人ひはあまこと  
皇暦ひへ。今すてありゆく。ひままであまし。もじり  
わせや。但しその堯舜禹湯文王武王などそん  
事例凡。儒者ハ。それらの。やう。不。も。ざ。じ。も。う。こ  
とかく。そのふたり。は。り。く。さ。く。も。れ。ま。じ。と。そ  
し。人。て。あ。ま。と。入。や。れ。ふ。ま。と。中。華。中。國。上。國  
か。は。ひ。く。れ。き。ま。す。あ。ま。ひ。あ。り。よ。う。す。て。皇。國。<sup>ミ</sup>  
背。も。キ。ト。レ。全。宋。堯。ど。か。く。ひ。か。そ。り。ば。と。が。く  
く。六。丈。連。一。丈。一。丈。一。丈。一。丈。一。丈。一。丈。<sup>ウニロトシ</sup>  
筆。書。め。入。の。祠。を。じ。ひ。こ。う。し。と。つ。る。も。す。と。ご。



み玉代あまねく。すくなくともあよどて

よろけしよまかとおどり、わざわい。

さうゆるのとのこしすとすて。はまよ

え。おもつまく。漢とし唐もいそやうすて

の國れ。主。日本中なかいひくとをもうす。

かきくくし。とくじ詩歌の本をりそて。おもだふと

ひこすのし。物が國の風俗をもとめだす

ぐひ。まづやうことそし。しやくくにふかひ。風俗

うふ。まづやうことそし。しやくくにふかひ。風俗

とく。やまとをもへねを。今ひととぞせがまくらを。  
いとぞ。おのとぞえく。お皇國ミクニノハリとぞ。  
とぞやうそヨウソ。明宮ヨウゴンノセイリス。ともぞ。  
あんとまひし。おとづらうのまくらば。い  
げとし。まくとてよとろづ。おもとぞ  
トト。さあす。さゆこびとあまくとてハ。唐人ヨロコも。が  
のう。うそばふとと。こハモーおか  
き。またハおがくとす。入れ字をうて。大唐  
とぞ。日本とぞ。は國クニノカミ。

まことふたりの國をもつてふ。又その國周とひ  
ト代とも。りうれらの事ほどと。いはく  
二字よりし。秦漢の不ぞりしてハ二字  
よりがほ。トリテ考ふまく。ト一字はふの事。  
や。かくよ。かよ。や。と。も。ねが。う。ふの  
か。ト。ま。二。字。に。も。ん。ぐ。る。も。と。と。も。し。む。け  
郡マ。の。名。セ。ト。う。ば。二。字。ト。ト。く。べ。三。字。ト。  
コ。モ。ト。カ。ド。キ。ト。シ。ラ。ヒ。ウ。ハ。ミ。ト。ト。モ。ト。た。ヒ。ト  
き。ゆ。シ。人。中。國。中。華。と。ハ。皇。國。キ。の。ミ。リ。ク。リ。ト  
史  
一。モ。バ。西。土。カ。ド。い。ひ。ラ。ブ。テ。蕃。國。ヒ。ア。リ。ト。ネ

タリ。ト。ホ。カ。ハ。ミ。ト。黒。ヒ。ト。ノ。ス。ウ。字。ト。ア。ミ。ト。ロ  
ト。イ。ト。ヘ。ト。ミ。ト。ト。ウ。ベ。ト。ト。モ。ト。シ。モ。ト。シ。モ。ト。  
シ。モ。ナ。代。の。漢。ト。ミ。ビ。ト。ミ。ト。ナ。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。  
ト。代。ミ。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。  
ト。後。半。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。  
ト。  
ト。  
ト。  
ト。  
ト。  
ト。

カナシとバ。それ人のいじじも。かへりしも。しよとも。  
ちうとアラモニキトド。雅トク。はまつ。し。  
明ヲ代トタリテ。えをんえ。清ハ代トカタム。明と大明  
ヒテシ。まにあこゆアヤ。ヘリタケシ。ミコト  
中華をどよ。シ。ヤジウ。ヘル人モ。み人の事と  
同レハシタ。必シヒツヒキ。ミマヒツヒキ。  
アヒヌゾト。モリタヨリ。アヒヌゾト。モリタ。  
ヒアス。アスモバ。ガタモガタモ。罪ヲタコニ。通テ世  
ノアリハ。まのけたうも。ふケタ。傷者カドハ。  
ノナリハ。シメハキヒ。トクムシタマヘアリカドハ。







年	1917
月	(二)
日	九
卷	中華書局影印

